中野の荒踊

道行きの後、境内で式典があり、終わると子どもの荒踊・銭太鼓、大人の綾踊・荒踊の順で奉納されます。

荒踊は、先モッショ2人と後モッショ1人、20名前後のカキで構成され、しなやかな踊りが特徴です。終わると一礼をして退出します。

モッショの胴衣には、鳳凰に桐、雲に龍や虎、前垂れには牡丹に唐獅子が描かれています。

小学生男子の荒踊

小学生女子の銭太鼓

成年女子の綾踊

成年男子の荒踊

宇土手の荒踊

道行きの後、境内に振り込み、神前の式を終え、女性たちの綾踊りとなり、その後、荒踊が踊りの陣形に振り分かれます。先モッショ3人と後モッショ2人、20名前後のカキで構成され、力強い躍動が特徴です。差踊の最後には後モッショが大きく境内を見渡しながら退出します。

モッショの胴衣には、鳳凰や桐、橘の紋が入り、前垂には龍やほら貝が描かれています。

女性たちの綾踊

小中学生の荒踊

二十四孝
この他、三番叟・銭太鼓・奴踊・つぼ綾の組踊があります。

成年男子の荒踊

高瀬の荒踊

道行きの後、鉦のせり合いがあり、女性たちの綾踊の後、円陣の中の先モッショの合図で踊りが始まります。先モッショ3人と後モッショ2人、20名前後のカキで構成され、力強く完成された演技が特徴です。差踊の最後には後モッショが大きく境内を見渡しながら退出します。

モッショの胴衣には、鳳凰や下がり藤、菊花の紋が入り、前垂には川浪に登り鯉・亀が描かれています。

女性たちの綾踊

中学生も混じる荒踊

傘踊り
この他、三番叟・扇踊・魚釣り・銭太鼓・綾踊り・猿踊りの組踊があります。

成年男子の荒踊

武　雄　の　荒　踊

国指定重要無形民俗文化財に指定されている武雄の荒踊は、一説によると享禄三年（1530）の島原の有馬氏が武雄の後藤氏を攻めた際、後藤軍が夜襲によって有馬勢を破り、宇土手ケ原まで追撃し、戦勝を祝って足軽たちが即興的に踊ったのが始まりといわれています。武雄領内の足軽常駐地区にひろまり、明治以降には領内全域にひろまったと推定されています。その後、戦争などで継承される地区が減り、現在は市内の10地区などで踊られており、そのうちの中野・宇土手・高瀬の荒踊が国の指定を受けています。

最初は祝い歌にあわせて踊られていたものが、江戸時代になって狂言の歌などを取り入れて現在のような踊りに定着したと考えられています。

素朴、流麗、力強さ、
躍動感に包まれた感動の世界

【中野】

1. 春の始め　音に鶯の　梅の古木　ｺﾆ羽は休む　ﾍﾔﾖｲｮｻｻ
   初音あげんな　冬の名残　ﾔｯｻｻ　ﾍﾔﾖｲｮｻｻ
   囀えや一声　この小鳥　ﾔｯｻｻ　囀えや一声　ｵﾆこの小鳥
   ｻｱﾁｬﾝﾁｬﾝ　ｻｱﾁｬﾝﾁｬﾝ　ｱｱﾍｲﾍｲ　ｱｱﾍｲﾍｲ　ﾍｲﾍｲﾍｲﾍｲ
   ﾍｲﾍｲﾍｲ　ｻｱﾁｬﾝﾁｬﾝ　ｻｱﾁｬﾝﾁｬﾝ　ｻｱｻｱｻｱ　ﾁｬﾝﾁｬﾝﾉ　ﾍｲｯ
2. 夏になりた　早や谷川の　つつじ　椿　ねに卯の花よ
   枝を交えて　咲き乱れ　花はやさしな　われが心にく
   らぶれば　　われが心にくらぶれば（ハヤシは1に同じ）
3. われが若い衆よ　おりや都わたりが　胸にまわった
   ﾍﾔﾖｲｮｻｻ　茶屋のおかかが　つきｨねだらいましたか
   ﾔｯｻｻ　ﾍｲﾔﾍｲ　ﾍｲﾔﾍｲﾍｲﾍｲ　ﾍｲﾔﾍｲｯ
4. 万事打ちすて　出て繁る　松山いわしゃんとせ　唐も日本も
   酒の浮世じゃと　世間が　（ハヤシ3と同じ）

【高瀬】

1. 伊予高浜の浮直谷の　ﾖｲﾖｲ　浮直谷の白さずま　ﾖｲﾖｲ
   何が一夜を明くる　ｵｯｿﾚ　ｵｯｿﾚ　変わるべし
   ｱｱﾄﾝﾄﾝ　ｴｲｴｲ　ｴｲｴｲ　ｴｲｴｲｴｲｴｲ　ｴｲｴｲ　ｴｰｲ　ｴｰｲ
   ｴｲｴｲ　ｱｱﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾁｬﾝﾄﾝﾄﾝ　ﾉ　ｴｲｯ
2. 直盛川のもみじ流る　ﾖｲﾖｲ　もみじ流るる　明らにの　ﾖｲﾖｲ
   何がこの世を明くる　ｵｯｿﾚ　ｵｯｿﾚ　変わるべし
   （ハヤシ1に同じ）
3. 山寺に参りてみれば　稚児たちの　ﾊｱ　しょくに手をかけ
   筆をたよりと　筆をたよりと　ｱｱﾄﾝﾄﾝ　ﾁｬﾝﾄﾝﾄﾝ　ﾁｬﾝﾄﾝﾄﾝ
   ﾁｬﾝﾄﾝﾄﾝ　ﾄﾝﾄﾝﾄﾝﾄﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝﾁｬﾝ　ﾁｬﾝﾄﾝﾄﾝ
   ﾉ　ｴｲｯ
4. 垣越しに　花折る稚児の　お手みれば　お手の光か
   花のうつしか　花のうつしか　（ハヤシ3に同じ）

差踊

5. 宿入りふりて子供寄せ　ｱｰｿｺｲｿｺｲ
   路銭貰いし　彼の郡助は　主の梅若たずねる心中
6. 彼のくせんや(国姓爺?)　和となりて　ｱｰｿｺｲｿｺｲ
   夫婦もろとも浜辺にいでて　しぎと蛤貝取る心中
7. 彼の源の頼光は　ｱｰｿｺｲｿｺｲ　大江山なる鬼人の退治
   それについての花見のしんりゅう(心中?)
8. 御代は　ｲﾖﾅﾝｻ　ｲﾖｴｲｴｲｿﾗ　御代はめでたの氏神様よ
   氏子栄えて村茂る
9. 五尺　ｲﾖﾅﾝｻ　ｲﾖｴｲｴｲｿﾗ　五尺手拭りや　中染めわけて
   誰にくりゅうやら宿におけ
10. 淀の　ｲﾖﾅﾝｻ　ｴｲｴｲｿﾗ　淀の川瀬のあの水車
    誰を待つやらくるくると

【奉納】　9月23日
中野：午前中、朝日町磐井八幡社
宇土手：午後、東川登町正一位神社
高瀬：午後、西川登町松尾神社

【宇土手】

1. 恋の心は　誰故候の　ｿｯｺｲ　あのます女郎の　ます女郎のふりか
   かる　ﾖｲﾖｲ　寝てもさめても忘れかたなよ　ﾊｱﾄﾄ　ﾄﾄ　ﾄﾄﾄﾄ　ｽｯﾄｲ
   ｴｰｲ　ｴｰｲ　ｴｰｲ　ﾊｱﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ
   ﾄｯﾁｬﾝﾉｴｲｨ
2. 渕は瀬となる　身はいつまでも　ｿｯｺｲ　情の末の　情の末の言の
   葉を　名残り忘れな　われも忘れな（ハヤシ1に同じ）
3. 山寺に参りてみれば　稚児たちの　しょくに手をかけ　筆をたより
   と
   筆をたよりと　ﾄﾄﾄﾄﾄ　ｽｯﾄﾄ　ｴｰｲ　ｴｰｲ　ｴｰｲ　ﾊｱﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ
   ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝ　ﾄｯﾁｬﾝﾉｴｲｨ
4. かきぐしに　花折る稚児の　お手みれば　お手の光か
   花のうつりか（ハヤシ3に同じ）

差踊

1. 祝い　ｿﾙｻｧ　正月かどの松　いつも変わらぬ　ときわやまぁ
   この　ときわやまぁ　この　はっとせ　ｱｰﾍｲｮｰ　ｱｰﾍｲｮｰ
2. きぬじょう　ｿﾙｻｧ　まいりをする人は　身をも清めて
   こうりゃまあ　この　こうりゃまあ　この
3. まあずう　ｿﾙｻｱ　日の出は東山　月はまあこの　月はまあ
   この　はっとせ

又1. 御代は　ｲﾖﾅﾝｻ　ｲﾖｴｲｴｲｿﾗ　御代はめでたの　氏神様よ
   氏神栄えて　宮茂る
2. 淀は　ｲﾖﾅﾝｻ　ｲﾖｴｲｴｲｿﾗ　淀の川瀬のあの水車
   誰を待つやらくるくると　誰を待つやらくるくると
3. 松の　ｲﾖﾅﾝｻ　ｲﾖｴｲｴｲｿﾗ　松のはごしに　月みれば
   しばし曇りて　のちさゆる